

第3回徳島県特別支援学校の教育環境に関する検討会議の概要について

1 日 時 令和7年12月18日（木） 午前10時から正午まで

2 場 所 徳島県立池田支援学校美馬分校（美馬市美馬町字大宮西100-4）

3 出席者

- （1）委員12名
- （2）オブザーバー4名
- （3）特別支援教育課長 ほか

4 議 事

- （1）検討事項に係る情報提供及び情報共有
 - 今後の特別支援学校在籍児童生徒数予測について
徳島大学デザイン型AI教育研究センター 助教 瓜生 真也 氏
 - インクルーシブ教育に関する動向について
国立特別支援教育総合研究所 総括研究員 東内 桂子 氏
- （2）検討事項についてのグループ協議

5 各委員からの主な意見（グループ協議）

テーマ：「徳島県の現状や地域性を踏まえた『インクルーシブ教育』の構想について」

- 子供たちが互いの理解を深めるためには、特別なイベントだけでなく、「自然な関わり」ができるような環境づくりが第一歩として必要ではないか。
- 物理的な距離がある場合、ICT機器を廊下等に常時接続しておき、気軽に日常会話ができる環境を作っておくことが「自然な関わり」の一助となるのではないか。
- 子供同士だけでなく、保護者同士も交えた交流を進めることが望ましいのではないか。
- 交流は一方通行ではなく、双方向（特別支援学校から地域へ、地域から特別支援学校へ）で行うことが重要だと思う。
- 「交流（イベント主体）」から、目的を共有して共に作り上げる「共同学習」へと段階を進めていく必要があると思う。
- 両校が実施しているよく似た活動をいかせば、教育課程を大きく変えずに実施できる利点があるのではないか。
- 専門高校と特別支援学校の職業教育（作業学習）でのコラボレーションが有効ではないか。
- 統廃合等で生じた空き校舎や空き教室を、交流の拠点として活用できないか。
- インクルーシブ教育は障がいの有無だけでなく、国籍、貧困、LGBTQなど、多様な背景を持つ子供たちのニーズを満たす教育であるという世界的な視点を持つことが大切だと思う。
- 特別支援学校においても外国籍の児童生徒が増加しており、多文化共生の視点を含めたインクルーシブな環境づくりが求められていると思う。